遠雷（2024.4-2025.3）

佐々木静江

病舎より音せぬ街や風薫る
遠雷に入江の小舟見え隠れ
蛍見や暮れて静かな山の宿
梔子の花に聞かせて独り言
暁天を映して揺るる植田かな
朝顔や朝の陰りに息づいて
バスを待つベンチに一人鰯雲
遠き日の想ひ出づるや吾亦紅
秋光の尖塔数ふ古都の路

裏窓の小さき空や小六月
機窓よりオーロラ探す夜長かな
金管に冬日をのせてジャズライブ
木漏れ日を集めて揺るる石蕗の花
初日待つ銀から金へ水平線
御手洗の水音続く初社
浅春や午下のベンチに今独り
のどけしや玻璃戸に映る空の青
囀りを探る窓辺や朝まだき
囀りや社の杜の風となり
瑠璃色の海に流るる春入日